



設計・施工〓(株)蓮見工務店

埼玉県行田市 金谷邸

端正な平屋で思い描く、 これからのこと

ご主人の単身赴任が長く、忙しい日々の中で、長く家づくりの夢を温めてきた金谷さん家族。

家族ともに暮らせる理想の住まいを叶えたのは、縁の深い地元の工務店だった。

写真〓西川公朗

家のあちこちに 家族を思いやる工夫が

埼玉県行田市の郊外、周囲を田畑に囲まれた長閑な土地に、金谷邸は居を構える。車庫まで架かる一階屋根と、ぐるりとしたつらえた横格子が印象的な美しい外観は、周囲の視線を集める。「雨の日に、家から車まで濡れずに行けるような車庫が欲しかった」という奥さんの要望を叶えながら外観の美点へと昇華した、設計士・蓮見健司さんの繊細な心遣いだ。

玄関ホールは広く、木のモザイク壁が客人を迎える。右手は広々とした土間収納、左手には

お母さんの居室。正面の扉、リビング・ダイニング・キッチンは見通しよく広々と。アイランド・キッチンは夫妻の念願だ。「前の家はキッチンが独立していて、料理をする間、孤独でした。今はおしゃべりしながらつくれるので、満足です」(奥さん)。「家族一緒にいられるこの空間をいちはん広く、とお願いました」(ご主人)。

さらに奥、夫妻の寝室、水まわりへと続く。明るく広々とした洗濯・物干し室はご主人の経験からのアイデア。「中国では洗濯物干しは日当たりのよい室内が当たり前でした。妻が花粉症なので、採用して本当によか

1 外観。 2 南庭からデッキを見る。
3 木のモザイク壁に、奥さんの生ける花が映える。
4 広々とした玄関。腰かけられる高さがちょうどよいご主人。





1



4



3



2

った」(ご主人)。

夢を詰め込んだ 端正な平屋

金谷さん家族が家づくりを考え始めたのは30年ほど前。当時、ご主人は奥さんの実家であるこの土地から、勤め先の所沢まで通う日々を送っていた。実家を増改築し暮らしていたが、古い家のトラブルは多く、すぐに「新しい家に建て替えたい」と思い始めた。「とはいえ仕事が忙しく、子どもも小さくて。そうこうしているうちに転勤になってしまっ」とご主人。2002年からは長野県佐久市へ単身赴任となり、家づくりの夢も先送りになってしまった。

「2015年までは長野で、そこから2年間はフィリピン、その後の2年は中国と、家族といられない時間がとにかく長かった。ここは念願の家なんです」とご主人。「一緒にいられない日々は寂しくて、1年9カ月ほどフィリピンに行ったこともありました。けれど主人は忙しいので一人の時間が長く、やっぱり心細いやら寂しいやらで」(奥さん)。



6



7



8



5



10



9

1 キッチンからリビングを見る。 2・3 飾られるのは、ご主人が仕事で訪れた世界各地からのプレゼント。 4 開口は南側にリズムよく。深い軒で日差し対策も。 5 ご主人が料理をすることも多いのだとか。 6 大工の井上さんによる棟札。 7 フィリピンで求めた鳥の吊るし飾り。 8 寝室にはご主人のワークスペースも。 9 浴室・脱衣室から洗濯・物干し室へ。 10 客間も兼ねる和室。



1 オリーブ。 2 マーガレット。 3 コンフェューサ。
4 ナンテンに水をやる奥さん。左手前にはオオデマリが咲く。 5 箱型の畑は奥さんのアイデア。好物の枝豆の収穫が楽しみだとご主人。 6 前列、金谷夫妻。後列左から(株)蓮見工務店の蓮見幸男社長と弟で設計士の蓮見健司さん。



家族の集う庭

そんな二人がついに、と取り組んだ家づくり。パートナーには、縁の深い(株)蓮見工務店を選んだ。「長女が蓮見工務店の大工、井上覚さんと結婚したことからのご縁。彼が出場した技能五輪は、家族で見に行きました。娘からもたくさん話を聞き、本当に腕のいい、信頼できる大工さんと工務店なんだと知って、いつかは任せたかった」(ご主人)。

「このリビングの松の赤身材は井上くんが長年をかけて貯めたもの。いつか金谷さんの家のために、と」そう話すのは蓮見健司さん。木の風合い生きる家をめざした井上さんの意志を尊重し、設計に生かした。

リビングの開口から、奥さんお気に入りの広々としたウッドデッキと、つくり始めたばかりの庭が。「今年は、子どもや孫たちを招いてこの庭でパーベキユーがしたい。畑で採れた野菜もあれば、最高ですね」と夫妻は笑う。家族みんなのでくり上げたやさしい住まいにはこれからもきっと、笑顔が集うだろう。

手刻みの仕事が生きる家づくり

埼玉県北本市 (株) 蓮見工務店



右、木材加工のための設計図、板図を囲み、意見を交わす。左は墨付けをする井上覚さん。下、墨付けに使う墨壺。縁起物の鶴や亀があしらわれることが多いのだとか。



「親父が厳しい人で、掃除や整理整頓は徹底するよう「親に、と」。そう話すのは(株)蓮見工務店の蓮見幸男社長。清潔な作業場内は、父親で先代社長、そして腕のいい大工だったという蓮見秀充さんの教えが、現在も脈々と受け継がれている証拠だ。

同社では幸男社長と、弟の蓮見健司さんが設計と現場管理を担当し、専属大工を中心に家づくりを行う。設計から施工まで、社内で完結できることが最大の強みだ。「現在、専属大工は6名です。僕が一歳の頃から住み込みで働いていてくれた昭和44年入社ベテラン、30代・40代の中堅、令和3年入社新人まで、世代も個性も豊かです」(蓮見健司さん)。

大工の井上覚さんは30代。平成14年に20歳で同社へ入社、今年で17年目を迎える。入社以来技術を磨き、平成19年に技能五輪全国大会(建築大工部門)で優勝した。同社のこだわりは、手刻みで仕上げる家づくり。「特に見える場所に使う材料は手刻みで、美しいほうを表に。木の個性を生かす手刻みにはこだわりたいんです」と幸男社長。そのためには、墨付けなどができる技術力の高い大工を育てていかなければならない。

いい家づくりのため、常に最善を尽くす蓮見工務店。建主一人ひとりに向き合う真摯な姿勢で、これからの理想の住まいづくりを助けていく。

「親

父が厳しい人で、掃除や整理整頓は徹底するよう「親に、と」。そう話すのは(株)蓮見工務店の蓮見幸男社長。清潔な作業場内は、父親で先代社長、そして腕のいい大工だったという蓮見秀充さんの教えが、現在も脈々と受け継がれている証拠だ。

所在地：埼玉県行田市
 家族構成：夫婦＋お母さん
 敷地面積：548.90㎡
 延床面積：164.071㎡
 竣工：2020年12月
 設計：蓮見建築設計事務所（設計担当：蓮見健司）
 施工：(株) 蓮見工務店（現場監督：蓮見健司） ☎048-591-2707
 構造形式：木造
 主な外部仕上げ：屋根＝ガルバリウム鋼板平葺き
 軒天井＝八溝杉羽目板張りキシラデコール塗り
 外壁＝ラスモルタル下地ベルアートSi吹付ゆず肌仕上げ
 主な内部仕上げ：天井＝八溝杉羽目板張り、ウレタンクリア塗装（つや消し）
 壁＝天然スタイル土壁「日本エムテクス」
 床＝朝日ウッドテックライブナチュラル「オーク」



稲荷の社。元の家にあったものを残した。